

第2回インフォメーション・ヘルスAWARD『アイデア部門』 応募用紙

○タイトル プロンプトで子どもを育てる時代の子供のプライバシー保護法

○応募者氏名

または グループ名 **みたほり班**

○解決したい情報環境をめぐる課題

現代の情報環境では、AI やテクノロジーが子供の成長や教育に大きな影響を与えていますが、それに伴い、子供のプライバシーや自主性が脅かされるリスクも増大しています。親が AI を利用して子供の行動や学習をモニタリングし、介入できる環境では、子供の自己決定権が制約される可能性が高まります。また、子供のデータ収集や利用の透明性が不十分で、倫理的な問題が生じる懸念もあります。このような状況で、子供の権利を守るための法的なガイドラインが必要です。

○アイデアの具体的な内容（どんなもので、どんな人が、どう使うと、課題が解決できるのか）

このアイデアは、AI やテクノロジーを活用して子供の成長や行動を管理する現代において、子供のプライバシーと自主性を守るための包括的な法的枠組みを提案するものです。具体的には、親が AI ツールを使用して子供の学習進捗、生活習慣、感情状態をモニタリングする際に、子供のデータ保護と自主性を確保するための明確なガイドラインと規制を設けます。この法律は、親や教育機関、テクノロジー提供者に対して子供のデータ収集と利用に関する厳格な基準を設定し、子供自身がデータにアクセスし管理できる権利を保障します。

具体的には、まず親が子供のデータを収集する際には、子供本人の明確な同意が必要となり、特に感情や心理状態に関するセンシティブなデータの取り扱いには厳しい制限が設けられます。また、収集されたデータは暗号化され、安全に保存されることが義務付けられ、第三者への提供や商業利用は禁止されます。さらに、子供が一定の年齢に達した段階で、親による AI による監視や介入の権限が段階的に制限され、子供自身が自分のデータにアクセスし、管理する権利が拡大されます。例えば、13 歳を過ぎた子供は自分のデータに対する閲覧権や削除権を持ち、親の管理下にあるデータへのアクセスも制限されます。

また、この法律には、テクノロジー提供者に対しても責任が課され、子供向けの AI ツールやアプリケーションを提供する際には、プライバシー保護機能を標準装備することが義務付けられます。具体的には、データの収集範囲を最小限に抑える設計や、子供自身がデータの共有設定を簡単に変更できるインターフェースの提供が求められます。さらに、定期的な監査や評価を通じて、法律の遵守状況を確認し、違反が発覚した場合には厳格な罰則が適用されます。

この法律の導入により、親は子供の成長を支援するために AI を活用しつつも、子供のプライバシーと自主性を尊重するバランスを保つことが可能となります。具体的な使用例としては、親が AI を使って子供の学習進捗を確認する際に、子供自身が目標設定や学習方法の選択に参加できる仕組みが整います。これにより、子供は自分の成長に対して主体的に関与し、AI が提供するデータを基に自分自身で判断し行動する能力を育むことができます。

○**アイデアは未発表のものかどうか。すでに「試作」「試行」している場合は、新たに付け加えたいアイデア（ブラッシュアップするポイント）など**

本アイデアは未発表のものであり、現在までに試作や試行は行っておりません。提案段階にあり、今後の開発および実装に向けて詳細な検討を進める予定です。これにより、子供のプライバシー保護を強化し、AI技術の適切な活用を促進するための新たな法的枠組みを確立することを目指しています。

○**アイデアを思いついたきっかけ**

このアイデアを思いついたきっかけは、AI技術の急速な進化とそれに伴う子供のプライバシーや自主性への懸念にあります。メディアリテラシー支援ツールの開発に取り組む中で、親がAIを利用して子供の学習や生活を細かく管理できるようになる現状に直面し、子供の自己決定権が侵害されるリスクを強く感じました。さらに、SNSやインフルエンサー文化を通じて子供たちがデジタルデータとして扱われる現象を目の当たりにし、子供の権利保護の必要性を痛感しました。またデータプライバシーの重要性を深く学び、子供が健全に成長するためには法的な枠組みが不可欠であると認識しました。これらの経験と社会的背景から、親がAIを通じて子供を過度に管理することによるプライバシー侵害や自主性の喪失を防ぐための法的枠組みを提案するアイデアを思いつきました。